



Profile No.2

一歩前へ

小嶋京子

小嶋 京子

こじま きょうこ

公認会計士 税理士
平成5年 小樽商科大学商学部卒業
平成6年 公認会計士試験合格
中央監査法人入所
平成13年 PricewaterhouseCoopers Hong Kong入所
平成17年 岡村公認会計士事務所入所
平成18年 税理士法人セントラル設立 社員就任
小嶋公認会計士事務所設立
平成28年 税理士法人セントラル 代表に就任(～現在に至る)
小樽商科大学大学院 アントレプレナーシップ専攻 修了(MBA)
日本公認会計士協会北海道会 幹事就任(～現在に至る)

と思っています。

札幌へ帰られてから10年ほどした後、MBA取得を目指されたそうですが、きっかけを教えてください。

私立大学の監事という立場に同時に就任したのですが、国立大学法人の会計に携わるのは初めてであり、初年度はとまどいの1年となりました。久しぶりに仕事に対して初心にかえり、様々なものを吸収し、自分にできることへ対応していかなくてはならないという意識をもっているところです。

女性会計士が今後さらに活躍するためにはどのようなことが必要だと思いますか。

女性が働きやすい環境を整えようという社会的な動きがあります。制度や仕組みが整うのは女性の立場から考えるとありがたいと思います。しかし女性だからという理由で、過剰に働きやすさを求めて“環境を与えてもらう”という受動的な考え方も、働きたいという女性自身が自分の意思を大事に、かつ、周囲とのバランスを考えて行動することが大事だと思っています。自分の働きたい意欲を満足させるために自分自身と周囲をどのように調整していくのか、組織を含めどのように協力体制をつくるのか、ということを女性側が能動的に考える必要があると思います。この仕事は、女性だからという理由で仕事が回ってこない業種ではないはず。声をかけられた仕事に対して、何らかの理由をつけて仕事を辞するよりは、仕事をしたいという気持ちが強いならば、新たな仕事はチャンスと思い、時間・気力の調整をして前向きに取り組んでみることで次のステップへの道が開けると思います。

若手へのメッセージ

常に「一歩前へ」ということを意識して行動をしていくと良いと思います。この言葉は私自身常に考えて続けてきた言葉であり、自分の成長を考えて行動をしていくことで将来の広がりが変わってきます。「一歩前へ」進むために“能動的に”行動をしていってください。

(取材・編集)日本公認会計士準員会
実践躬行チーム

公認会計士を目指そうと思ったきっかけを教えてください。

高校生の時に将来の仕事をぼんやり考えているなかで、いざ大学を決めようという時期に新聞で女性の公認会計士の方の記事を目にしました。もともと実家が会計事務所を営んでいたこともあり、女性でも仕事に対し誇りを持ってできる仕事であることに魅力を感じ、公認会計士を目指すことにしました。

公認会計士人生でのターニングポイントを教えてください。

東京の監査法人を退職し香港に移った時、香港から札幌に移った時、それぞれがターニングポイントです。それぞれの段階でドラスティックに仕事の内容・環境が変わり、それぞれの場面で自分のできることあるいは初めてのことに對してもなんとかこなしてきた結果、どのような仕事でもやれることをできるだけやることが先につながるという自信につながってきたと思います。

香港ご駐在のご経験について教えてください。

移動のきっかけは、夫が中国へ転勤となり、近隣の香港でワーキングビザを取得すれば滞在できるということであったため、現地で仕事をする決心をしました。東京の監査法人の退職は決めていたため、内部的な手続きによる現地事務所へのコンタクトはせず、現地事務所に直接メールで現地採用での就職の可能性の問い合わせをしました。運良く次の駐在を探していた状況であり、待遇も良く受け入れていただけました。英語は小学生の頃から好きであり、大学の短期語学留学をしていた経験があったものの、香港の癖の強い英語に当初3か月は苦労しました。そのため、電

話を受けたあとに必ずメールを送ってもらい内容を確認するという毎日が続きました。

香港では日系開発事業部という部署に配属となり、主に日系企業と現地の会計士を繋ぐ仕事をしていました。そのため、主な仕事内容はマネジメントでしたが、日本と香港の働き方の違いにとまどい、会計監査のほか税務から会社法対応まで幅広い仕事をしていたこともあり非常に大変でしたが非常に充実した仕事ことができました。

香港で働き始めてから1年半後、現地で娘を出産し、産前産後10週間休暇という現地のルールに則り、仕事に復帰するためフィリピン人のお手伝いさんを住み込みで雇用しました。郷に入っては郷に従えではありませんが、お手伝いさんに頼まず、自分で子供を育てるという日本風を選択してしまったら今の自分はないかもしれません。子育てにあまり時間をかけられないかもしれないという母親としてのあり方に迷いはありましたが、女性が活躍できている活気ある香港での仕事を辞めたくない気持ちが強く、仕事を継続することを決めました。

日本に戻られてからのことについて教えてください。

香港に滞在してから2年半ほど経過したとき、札幌で会計事務所を営む父が病気で入院したとの連絡が来ました。この時期は香港での仕事が多忙を極め、子供という時間を十分に取れなくなってきてしまったため、“お手伝い”という形で実家の仕事に従事することを決め、札幌に戻りました。札幌では税務中心の業務が初めてだったことや、さらに2代目のプレッシャーもあり、最初は非常に大変でした。実務経験と歳そのものを重ねるにつれ、関与先・従業員両方から信頼される状況によりようになってきたと最近感じられるようになったというのがこの10年を通じての一番の収穫

札幌では監査法人時代・香港時代とは異なり、対応する相手は経営者、かつ、経営全般の相談に幅広く対応していかなくてはならない環境となりました。会計監査・日系企業向けのコンサル業務の経験のみでは十分な情報提供ができないという認識を持つようになりました。また、自分自身も、会計事務所を引き継ぐことが想定されていたため、経営者としてのトレーニングが必要な状況となりました。そのため、経営に関する基礎的な知識の習得が必要と考えたのがきっかけです。また、札幌において、同業者以外で、社会人になっても真剣に学ぶ意欲のある勉強仲間が欲しいと思ったのも動機の一つです。18時30分から21時40分まで、週3回程度の講義に加え、事前・事後の課題がハードであり、仕事の合間の課題作業・早朝起きて課題作業など時間をつくるのに苦労しました。

MBAを取得した後の変化としては、時間の使い方に無駄がなくなったこと、論理立てて説明できるようになったこと、関与先の話においても財務面だけでなく、経営全般の視点から意見を出せるようになったことなど、さまざまな変化があると思います。

現在のお仕事について教えてください。

父が創業してから45年超となる税務会計事務所をベースとした税理士法人のため、かなり古くからの関与先もいらっしゃる一方、起業間もない関与先も多く、多種多様な業種・経歴の経営者の方々への対応をしています。税理士法人の経営者という立場であると同時に、自分自身が相当数の関与先を直接担当している状況が続いているため、経営者と実務担当者の二足の草鞋の状況を脱しないと、経営者としては一歩先には進めないと感じているところです。また、昨年春、国立大学法人と